

## F-REI 市町村座談会（葛尾村）議事要旨

1. 日 時 令和5年7月27日(木) 16:15～17:35

2. 場 所 葛尾村村民会館大ホール

### 3. 議 事

(1) 開 会

(2) 挨拶

(3) F-REI の取組紹介

(4) 意見交換

<テーマ> F-REI との未来の連携について

(5) 閉 会

#### 【主な発言内容】

- F-REI にじゅうねん（エゴマ）の効能や科学的な健康効果を調べていただけると広告等にも活用できる。
- 公共工事等を請け負っているが、原子力災害等の影響で村民が減少していくなかで経営は大変である。
- 少子高齢化で労働力不足であることから、F-REI には建設分野においても省人化に向けた研究を期待している。
- 研究施設の設置や、研究者の居住を通じた葛尾村への経済効果に期待している。
- 葛尾村内の幼稚園、小学校、中学校は平成30年に再開された。1人1人に寄り添った少人数教育を実施している。
- 大学進学を目指すハイレベルな子供たちだけでなく、学力が普通レベルの子供たちのための教育環境も必要。F-REI には、学力の底上げにつながるプログラムの作成など、人材育成の取組に期待したい。
- F-REI の研究者が住みたくなるようなむらづくりを行っていききたい。

- このままでは日本の農業は潰れてしまうので、農業の儲かる仕組みの形作りが重要。また、未来のために若い人材の育成も重要である。
- エビの陸上養殖を通じて産業クラスターを作っていきたいと考えている。
- エビの養殖により地域経済活性化や雇用創出を行うことはもちろん、エネルギーの自給システムの構築、食品残渣からのエサ開発や養殖池廃棄物によるウナギやナマコ養殖、養殖の排水を利用した植物の生産、少人数でエビ養殖の管理をできる DX 化などに取り組んでいる。
- F-REI には、産学官連携のための支援をお願いしたい。
- 大学と自治体の連携を継続していく上で人の移動や予算が課題であり、F-REI には新しい仕組みづくりを行ってほしい。また、後継者の問題も深刻であり、新しい人材をどう入れていくかが課題である。
- 野行地区は昨年 6 月 12 日に帰宅困難区域の指定が解除されたが、4 軒中 1～2 軒しか戻っておらず、生産組合の継続も未定。地域環境の保全と農地の有効利用が問題。
- 農家離れが進み、農業の担い手不足が深刻な状況である。